

見学会記録

コンラッド東京のデザインについて

(株)観光企画設計社

山田誠夫、諏訪太郎、矢嶋陽介、神谷孝江、金山麻里、温盛義隆、菊池 諭

日 時:平成 18 年 4 月 20 日(木)

12:00~チャイナブルーで昼食と概要説明 14:00~施設見学会

見学場所:東京汐留ビルディング コンラッド東京

主 催:交流部会 インテリア部会 参加者:22 名

エントランス・ロビー

1階エントランス・ロビーは南北に入口を持ち、主に北側は徒歩、南側は自動車でのアプローチとして明確に分離して計画されています。中央に置かれた漆塗りのアートは訪れた者に強く印象を与え、ホテルの顔となっています。そしてニュートラルな印象を与える空間の1階ホテルエントランス・ロビーを中心として1・2階のチャペル・宴会場と28階からの客室・飲食施設・スパを明確に分離することで人の流れを制御しています。

28階のフロント・ロビーは天井高7.4mを確保し、立地条件による浜離宮恩賜庭園、東京湾への眺望を最大限に活かすことで訪れる人に開放感を与えています。またバー・ラウンジ「トゥエンティエイト」は、低くゆったりとしたファニチャーを使用することで、フロント・ロビーからの眺望を妨げない心配りが見受けられました。フロント・ロビー正面奥には「コンラッド東京」のキーデザインアイコンである「門」をモチーフにしたアートが鎮座しており、和の重厚感を演出しています。

訪れる者を向かい入れるエントランス・ロビー、フロント・ロビーはモダンでありながら、重厚感漂いかつ開放感を備えた印象を与える空間を構成しています。

客室

客室階の廊下にも当ホテルのデザインコンセプトである「門」をモチーフとした意匠が施されており、部屋の出入りの際に隣のゲストと顔をあわせないようにプライバシーに対しての配慮がなされています。

客室内のデザインはモダンでありながら日本のテイストを各所に取り入れています。

例えば、カーペットやベッドヘッドに梅のような柄を使って、穏やかな日本テイストの中にも洗練された印象を受けます。また、ベッドの高さも、約670mmと高く、高級感を感じるとともに、ベッドに横になったとき、腰窓から、夜景が見えるような配慮が感じられます。特に印象的なのがベッドルームとバスルームがガラスで仕切られていることにより、部屋全体の一体感が生まれ、優雅さを感じたことです。



ホテル・スカイロビー



ホテルバーラウンジ
「トゥエンティエイト」

バスルームにも見せるためのデザインがされており、洗面スペースの奥に、フロストガラスで仕切られたトイレとシャワーコーナー、手前に独立した楕円の浴槽があります。ベッドルームからバスルームを眺めてみると、バスルームを使用しながら、ベッドルームを眺められる開放感はとても心地よいものです。



シティビュー側に面した客室



シティビュー側に面した客室
(浴室よりベツトルームを望む)

チャイナブルー

28階フロントロビーから、バー・ラウンジ、フレンチ、日本料理の店々をすぎた最も奥まったところに、このレストランの入口があります。そこは、東京湾側の眺望が広がる、天井が高く、広々とした開放的なロビーの空間とは対照的な、暗いトンネルのような空間です。そのアプローチはまさに「門」をイメージさせるものであり、その暗いトンネルの先にレセプションカウンター、そのガラス越しに厨房が見えるとい

う、ゲストが好奇心を持ちながら巧妙に迎え入れられるような演出がなされていると言えます。

そして、それらの演出に招かれるように進んでゆくと、突然、明るい大きな空間が視界に飛び込んできます。テーブルの木目、ソファのパターン等、様々な素材、色が用いられてはいませんが、全体的には白色・青色が大きな面でシンプルに用いられているため、賑やかではあるが、落ち着いて食事ができる空間にまとめられています。

宴会場棟

宴会場は高層棟とは別の低層棟にあり、宴会場をはじめ、チャペル、写真室など宴会部門の機能が納められています。

宴会場までの道程はメインエントランス脇のくの字型に曲がった通路を抜けてアプローチします。長く視線を振るその通路、ホテルの空間構成として多用している「ゲート」を思わせる黒い三方枠を使うことによって、建築としての統一感とホテルのデザインコンセプトである「和の空間」を上手く表現しています。

中宴会場

1階にある中宴会場「浜離宮」は227㎡の規模で、2分割して使用することができます。見学時は分割して使用しており、窓のある側の宴会場「汐入」はテーブルを並べてパーティー用の会場を構成している最中でした。反対側の「黒松」は会議用に長机を並べ、映写用スクリーンを下ろしていました。スクリーンは両方に設置しており、様々な状況に対応するように作られています。

中宴会場ホワイエは日本庭園に面する大きな窓があり、窓の手前は黒御影石仕上げとなっています。室内側から見ると、それが光に反射して庭の緑が水に浮いているような演出がされています。

大宴会場

大宴会場「風波」は570㎡の規模で3分割して使用することができます。天井高8mという高さ、外部の雰囲気、自然光が十分に入り込む非常に明るい空間を作り出しています。また、1階と大宴会場ホワイエを繋ぐ大階段はライティングされ、ラグジュアリーホテルの宴会場を象徴するにふさわしい佇まいを備えています。

ホテルの落ち着いた雰囲気に対して、明るく奥行きのある低層棟は宴会場の持つ華やかなイメージを体現しているようでした。この二つの要素の対比がホテルの持つ「安らぎ」と「華

やかさ」の相乗効果を生み出しているのではないでしょう。

チャペル

暗く囲まれた雰囲気のリンダー状の前室を抜けるとチャペルの白い空間が広がります。チャペル正面の開口部からは光が差し込み、アプローチまでの巧みな演出と共にこの空間を奥行きのある深いものとしています。

低層階棟に位置するウェディング・チャペルは大階段の奥に位置し、専有スペースでのプライベート感のある結婚式が行えそうであり、チャペルから宴会場へのアプローチもゆったりとしているので混雑の心配がなさそうだと感じました。ただ大階段でフラワーシャワー等の演出ができることでしたが、チャペルを出て階段までのエリアが広いだけに、参列者の誘導等が困難なのではないかと感じました。

ウェディング・チャペルまでのエリアがダークで落ち着いた感じなのに対し、白い大理石を用いたチャペル内は、自然光が差し込む白くて明るい室内となっています。祭壇正面のパール感のある壁面とシャープな十字架、両サイドの床より青い LED 照明がよりシンプルでホテルのコンセプトである、モダンラグジュアリーな感じを出しています。

全体を通してヒルトングループ最高級ブランドの「コンラッド東京」は「和」、「モダンラグジュアリー」、「開放感」と全体を貫通するキーワードがありますが、1つの機能に対して1つの空間デザインを感じました。それらがパッチワーク状に集合することで「コンラッド東京」は構成されているのではないのでしょうか。訪れた者は、次から次へと物語のように展開されるシーンに飽きることなく、最高の「安らぎ」を得ることでしょう。



1階ホテルロビーと宴会場やチャペルを繋ぐ廊下チャペル前のホール



チャペル内部